

■ 1. 17 丸31年

本日の追悼集会で、次の作文を紹介しました。

「阪神・淡路大震災 その時、ぼくは……」

ぼくはあの地震を一生わすれない。ゆれがおさまり、やっと家からでた。父も母も声もなくたたずんでいた。すると、前の通りを「大丈夫かあ～！みんな、大丈夫かあ～！」とさけびながら歩いている男の人の声が聞こえてきた。父と母は「はっ」とした様子だった。そして歩きはじめた。外はあたり一面、かわらのじゅうたん。古いかわら屋根の家から、おそらく全てのかわらが落ちていた。ぼくたち3人はガスくさい中、「ばく発はないよな…」といのりながら歩いた。父と母は時々「大丈夫ですか～！」とさけんでいた。おばあちゃんの家へ3人で向かった。

どれほど歩いただろうか。歩いていると背中が温かくなった。「何？」それは… 太陽だった！あのときの太陽のぬくもり・温かさを感じができる、つまり生きている、という実感は今でもおぼえている。がれきのほこり、火事のけむりが立ちこめる白い空をつきやぶって、太陽の光がさしてくれた。歩いている道中は、とてもしづかだった。道ばたに座っている人は、ほとんどがパジヤマすがたに毛布といったかつこう。まだ、サイレンの音やヘリコプターの音はしていなかった。車の音もしない、電車の音もない、話し声もない…。聞こえるのは、火事のぱちぱちという音だけだった。いつものまちはいっしゅんのうちに見たこともない景色へとかわってしまった。

この地震の後、しばらくして、私が担任していた和田山町立（現・朝来市立）糸井小学校の2年2組には、2人の転校生がやってきました。いずれも、震災で家を失い、おじいちゃん・おばあちゃんの家のある和田山に来ましたからです。一人は芦屋の男の子、もう一人は神戸の女の子でした。

この女の子のことは、今でもよく覚えています。というのも、教室で勉強をしていていつもどこかビクビクしているようで、「どうしたの。」と尋ねると、「おしりが揺れて怖い。」と涙目で訴えるのです。もちろん、教室は揺れてなどいません。彼女は、その地震でタンスの下敷きになり、やっとのことでそこから助け出されたというトラウマをもっていたからです。

次年度の4月にはそれぞれ芦屋と神戸に帰っていった2人ですが、今はきっとがんばっていることと思います。

また、一度土・日を利用してボランティアにも行きました。被害の大きかった灘区の、確か西灘小学校だったと思います。

運動場にも数々のテントが並び、避難していた人は体育館にぎゅうぎゅう詰めでした。体育館だけではスペースが足りなくて、理科室や図工室などの特別教室に寝泊まりしている人もいました。私はプロパンガスの取り替えのための運搬や、炊き出しの鍋洗いなどの仕事を昼間はお手伝いし、夜は何人かの小・中学生に勉強を教えました。そこでは、誰一人としてやけくそになったりする人はなく、みんなで力を合わせて生活していたこと、なによりも明るかったことに驚きました。

いずれも、自分自身の中で決して風化させてはいけない出来事だと思っています。

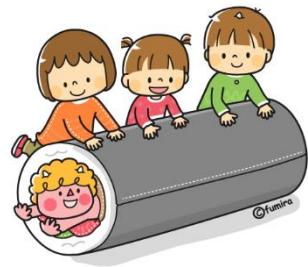


(校長 山本 考一)

裏面に続く

●○● 2月の行事予定 ○●○

- 2日（月） 安全の日
3日（火） スキー教室予備日（5・6年）
モンゴル館出前授業（2年）
5日（木） 児童集会
6日（金） クラブ活動（4・5・6年）、クラブ活動見学（3年）
7日（土） 授業参観、PTA 教育講演会
お弁当の日
9日（月） 振替休業日
10日（火） 演劇ワークショップ（1・2年）
入学説明会
11日（水） 建国記念の日
12日（木） 植村直己冒険賞記者発表（5年が参加）
16日（月） 安全の日
17日（火） 福祉体験学習（4年）
18日（水） 読み聞かせ
20日（金） 委員会活動（5・6年）
23日（月） 天皇誕生日
25日（水） 手話体験教室（4年）
26日（木） 児童集会



*毎週木曜日を定時退勤日とし、教職員は18時までには退勤します。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。（パスワード： ）

学校教育目標「自分を伸ばす みんなで高め合う 府中っ子～「自分事」「自分たち事」となる学びの創造～」

PTA スローガン「絆とつながり～学校と地域で子どもたちの未来を育む～」